

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	筑波大学	整理番号	R01
プログラム名称	エンパワーメント情報学プログラム		
プログラム責任者	稲垣 敏之	プログラムコーディネーター	岩田 洋夫

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、本プログラムの統一的な考え方として、「人間学としての情報学」に収束させ、学位プログラムを止揚し体系化した点は期待を上回る成果であり、高く評価できる。グローバル教育院が設置され、学際的な人材評価システムの構築や異分野複合研究指導體制の確立により、質保証システムを早期に完成・運用している点も評価できる。プログラム自体の継続的な改善、構築したエンパワースタジオをはじめとする環境を活用した海外・企業連携及び様々な学会・コンテストでの入賞実績など、目に見える成果を多数上げている点もこれを裏付けている。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、学生は本プログラムが狙いとする人材が持つべき能力である「魅せ方力」、「分野横断力」、「現場力」を修得し、アンケート調査の結果でも、8割以上の修了者が本プログラムを履修したことを満足していると回答している。具体的エビデンスとして、システム情報工学研究科の非履修生と比較し、個人あたりの論文数は同等であるが、学術賞受賞数は6倍以上、コンテスト入賞数は88倍と極めて多いことから、本事業で期待する実践力が獲得できており、計画を上回っていると評価できる。また、平成31(2019)年3月時点の修了者の就職率が100%であることに加え、その約7割が起業を含むアカデミア以外に就職している点も、本プログラムの理念が十分に理解・実践されていると評価できる。さらに、同窓会の組織化や企業連携会議を活用したフォローアップ等、修了者との関係拡大も実施している点は評価できる。

事業の定着・発展については、学長のリーダーシップの下、本プログラムを先導的改革と位置付け、令和2(2020)年度より研究科・専攻を廃し、全学を学位プログラムに移行する計画が決定されている。これにより本プログラムは、大学院改革の先導的役割を果たすとともに、永続的に定着することとなり、計画を上回る運営として高く評価できる。さらに、グローバル教育院も分野横断型学位プログラム運営組織として機能を維持し、将来的には「新学際創造学術院(仮)」として発展拡充する計画が示されている。達成度評価に関しても、本プログラムで開発したコンピテンス評価尺度を全学に発展させ、質保証を行うなど、全学改革を推進している。企業連携会議の設置により、永続的な企業連携を進めており、継続的発展を担保している。これらを、本プログラムの開始後早期から大学院改革計画と連動させ、推進してきた点は高く評価できる。